

沖縄県の国公立大学 ～先輩からのアドバイス～

○沖縄のいいところは、

- ・親切な人が多い。
- ・いじめなんてなかったという人がほとんど！
- ・意外と涼しい。
- ・みんな明るい（ポジティブ）
- ・助け合い精神。

○琉球大学のいいところ

- ・キャリア形成のための講義が充実している。沖縄の企業を支えている講師の方々と企業が求める人材について考えたり、海外インターンシップなどの機会を紹介してくれる。
- ・戦争のこと、憲法のことを沖縄からの目線で考える講義がある。
- ・海外留学生が多く、自分の視野の狭さを実感できる。申し込みをすれば留学生と昼食を食べることができる取り組みもある。
- ・学食が美味しい。ネギトロ丼がオススメ。
- ・広々としたキャンパス。自然いっぱいのキャンパスで「大学」という雰囲気がある。
- ・教育学部は4月の終わりくらいに1年生全員参加する合宿がある。いろんな学科の人と交流することができます。

○沖縄県立看護大学のいいところ

- ・男子が少ない分、男子同士が先輩、後輩を超えて団結力が強い。
- ・学生会主催の離島への研修もあり、とても楽しい。
- ・オープンキャンパスや文化祭には地元の高校生が大勢やってくる。
- ・1年の前期から実習があります。私は石垣島の八重山病院に行きました。とてもいい経験になった。
- ・単科大学だから同じ目標に向かって一緒に学べる。
- ・実習が楽しい。
- ・交通の便がいい。
- ・サークルも自由に出入りできるから、自分が参加出来る時だけ参加すればいいので、楽しい
- ・勉強も専門的なことを1年生から学ぶので、専門学校のようにみえるかもしれないが、そこまで忙しくもなくバイトなど自分の時間もはっきり作れる。
- ・先輩との交流が多く、いろんな人から話を聞くことができる。
- ・看護師、保健師（受ける人は助産師）の資格を取得することが可能である。



琉球大学の図書館はきれいで大きいです。ハブは、今のところ見ていません。



沖縄県立看護大学で、三線サークルに入って、楽しんでいます。

1年生 文理選択について

普通科では2年生から文系と理系に分かれます。文系では国語や英語、地歴・公民といった科目が重視され、理系では数学と理科が重視されます。一週間に学ぶ時間数も系統ごとに異なり、内容も大きく変わってきます。この文理選択が進学先を大きく左右するのみならず、その後の職業選択にも大きく影響してくることはいうまでもありません。だからこそ、不得意科目から逃げるような選択や、友達に左右されて文理を選択することなどないよう、自分の将来設計をしっかりと吟味して慎重に選択しましょう。選択の際に参考になるのが、大学・短大や専門学校の受験科目。たとえば、大学の試験科目に数学Ⅲや理科の2科目が指定されている場合は理系を選択しなくては受験できませんし、センター試験で地歴と公民の両方が課されている場合は文系に進む必要があるでしょう。進路資料室には各大学や専門学校のパンフレットが準備してあります。わからないところは、担任の先生や進路指導室の先生に遠慮なく質問してください。

9月19日・20日は、3年進研マーク

9月26日は、小論文模試3年、頑張れ！3年！

2年生 グレードアップ・ゼミ感想

2年生の普通科生徒20名が、8月4日(火)～6日(木)の3日間、鶴丸高校で行われた「夏トライ! グレードアップゼミ」に参加して、他校の生徒と学習し、大きな収穫を得て帰ってきました。

～生徒の感想文から～

- ・「今までにない予習の大切さを知りました。」
- ・「参加してみて、数学・英語では、自ら進んで、黒板を使って説明をしたり、英文を読むなど、自分たちよりもレベルの高い生徒がいることがわかった。」
- ・「ゼミに行く前は、すごく不安でした。しかし、3日間を通して、他校生の頑張る姿をみることで、自分をもっと頑張らなくてはいけないことを痛感しました。」
- ・「このゼミは他校生と交流する機会があり、自分は絶対に友達は出来ないだろうと思って、とても不安な気持ちでしたが、グループ活動を通して、自分と同じような悩みを抱えている人に出会ったりして自然と溶け込むことができました。」
- ・「自分の日頃の授業の受け方を見直そうと思いました。また、改めて自分の勉強量の少なさを実感しました。」



朝7時。さあ、これから出発です。頑張ってください!!



これだけの他校生と共に頑張ります。



夜は、ホテルで、仲間と共に自習です。自分自身びっくりするくらい集中できました。

3年生 個別試験の出願について

いよいよ、センター試験の出願が迫ってきました。しかし、実際、国公立大学の個別試験の出願について、まだ理解していない人も多いのではないのでしょうか。そこで、個別試験の出願について説明します。

国公立大学は現在の制度では、前期・後期そして1部の大学で中期日程を実施しています。この出願は、センター試験が終了してから1週間後から2月の頭にかけての時期に一斉に出願しなければなりません。よく勘違いするのが「前期試験の不合格がわかってから後期の出願をする」という考え方ですが、これは間違いです。センター試験を受験した後、前期は〇〇大学、後期は△△大学と決定し、出願をしなければなりません。この時に参考になるのが自分のセンター試験の自己採点です。くれぐれも自己採点でのミスがないようにしなければなりません。普段の模試でも自己採点をしてもらっていますが、実際の結果とは異なる人が多いようです。本番の試験でもセンター試験の結果が返ってくるのは5月くらいなので、出願の際は自己採点の結果だけが頼りです。くれぐれも自己採点をいい加減にしないようにお願いします。

本校ではセンター試験受験後、その日の夜にホテルで自己採点をし、その結果をいつも受験している模試業者に送ります。そうするとすぐに個人票が返送されてきます。〇〇大学は自己採点の段階で第一志望にしている人が何人、その中であなたの結果だと何位くらい、判定は何、といったものが記載された個人結果票です。全国50万人を超えるセンター受験者のほとんどが同じようにその判定を見て改めて前期はどこに、後期はどこにと考え出願先を決めます。最近ではこの判定結果を見て受験生が大きく

動き、実際の出願は数が少なくなったり、あまり人気がないところに出願が集中したりというようなことが起こり、判定結果が当てにならないこともたまに起きています。しっかりと第一志望を持ち、そこに向けての力を蓄えておくことが何より重要です。

もうひとつ重要なのが、第二志望の設定です。第一志望よりもランク的には一つか二つ落とすことになるでしょうが、自分がその大学なら納得して勉強してやっていけると思えるような大学を探しておくことも大事です。なぜなら、たいていはその第二志望が後期の出願大学になるからです。後期は募集定員が少なくなり、誰もが浪人をしたがらないので、志望を少し下げてください。同じ学部と同じ学科でも、前期と後期とでは受験生のレベルが違ってきます。解りやすく言うと、鹿児島大学の後期試験には前期で熊本大学や九州大学に挑戦した受験生が安全を期して出願してくることも予想されます。もちろん第一志望の大学に前期・後期ともに出願する学生もいます。